

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌ウイルス	2021年												2022年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 ~4日	9月 ~11日	9月 ~18日	9月 ~25日	10月 ~2日	10月 ~9日	10月 ~16日	10月 ~23日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	69	64	99	99	47	12	9	17	9	28	14	15 (17)	18
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	62	88	90	30	53	15	13	5	7	13	4	9 (10)	10
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	1	1	10	2	0	0	0	0	1	0	0	0
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	5	5	3	16	12	5	4	2	1	1	7	3	2
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	20	32	22	26	19	3	3	2	5	7	2	3	5
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	19	28	9	17	18	7	1	4	3	7	0	3 (4)	2
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	1	3	4	1	4	0	0	1	0	1	0 (1)	1
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5	7	1	1	1	0	0	0	0	1
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
*前回と今回のその他の1件は、アエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第42週(10月17日~10月23日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	1	結核	1					1		
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1						1	
四類	8	日本紅斑熱	7			1		2	1	3
		レプトスピラ症	1			1				
五類	10	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1						1	
		カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1					1		
		梅毒	8					6	1	1
新型コロナウイルス感染症	7,198	新型コロナウイルス感染症	7,198	776	651	574	346	2,972	320	1,559

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第42週に2,972件の報告があり、前週(2,931件)と比べるとほぼ横ばいです。全国でも、新規感染者数は横ばいや増加傾向の地域が多く、今後の発生動向に注意が必要です。これから寒くなると、窓を閉め切った屋内で過ごすことが増えますので、「換気の悪い密閉空間」にならないよう、こまめな換気を心がけましょう。

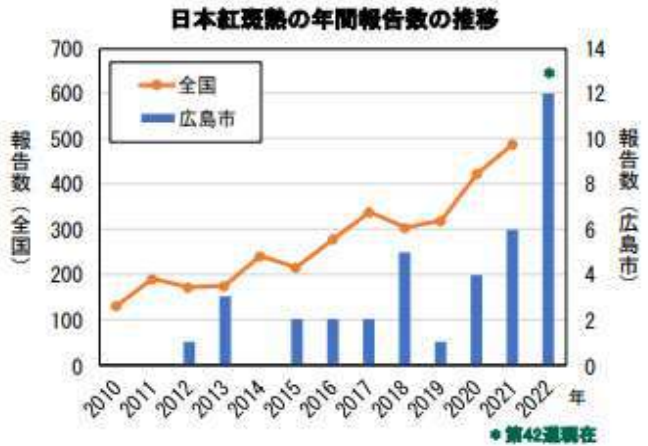
2 日本紅斑熱

今年の累計は12件となり、昨年の年間報告数の2倍になりました。日本紅斑熱の年間報告数は年々増加しており、2021年は全国で490件と最多を更新しています。

日本紅斑熱の発生時期は、マダニの活動が活発な春から秋であるため、冬に向けて減少する傾向ですが、ダニ類の一種であるツツガムシが媒介するつつが虫病は、秋から初冬に増えますので、今後もダニ類への注意が必要です。

山や草むらに入るときは、長袖、長ズボンを着用するなど、ダニ類に咬まれないように注意しましょう。

【参考】ダニ媒介感染症(厚生労働省)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
フィリン	インフルエンザ	-	-	0.18		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.05	0.16	
小児科	咽頭結膜熱	1	0.05	0.23		眼科	RSウイルス感染症	9	0.41	0.68	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	0.64	1.43			急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	72	3.27	3.04	急増		流行性角結膜炎	2	0.25	0.65	
	水痘	-	-	0.18		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	11	0.50	1.72	増		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.05	0.07			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.03	
	突発性発しん	7	0.32	0.41			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	17	0.77	0.68	増		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増	↘	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	95	60歳代
4	日本紅斑熱	2	12	60歳代・市外、70歳代
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	7	60歳代
5	梅毒	6	271	20歳代・1人、30歳代・2人、40歳代・2人、50歳代・1人